

## 平成27年度 附属学校園存続のための特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	小中連携して取り組むメディアリテラシーの習得にかかわる事業
事業実施代表者	杉山佳彦
実施附属学校名	北海道教育大学附属釧路中学校
実施内容 (実施内容について 1,000字程度で記述)	<p>近年、児童生徒の図書離れ、不読率は高まる傾向にある。家庭や学校図書館における蔵書数・種類の不十分さがその一因であると考えられる。一方、通信情報機器が発達し、情報が氾濫する中、正しいメディアを選択し、活用する能力の育成は急務である。その基礎的な使用方法や活用方法を身に付けるとともに、情報を処理する能力や情報を発信する能力、情報を評価・識別する能力、情報をクリティカル（批判的）に読み取る力等を身に付けることが必要である。本事業においては、小中で連携し、メディアリテラシー、活字媒体の検索能力、また、その読解力の育成を図ること、ICTを活用した教育活動を小中一貫して取り組むことにより、その涵養を図ることが目的である。</p> <p>授業や行事等、各教育活動において、児童生徒が主体的にメディアを活用することをとおして、現存するリソースを有効に活用する手立てを体験的に学び、生涯にわたって、メディアリテラシーの涵養を図ることをねらっている。図書や情報機器等のメディアをとおして、検索技能や活用技能、教科学習へ転用する力を身に付ける。小中連携の一環として、図書を共有するとともに、読み聞かせ活動や、ICTを活用して小中で資料・情報を共有する等、より発展的な教育活動の展開が可能となる。</p> <p>本事業を推進することにより、中期計画I-3-(3)36-2 小中一貫教育の推進をより効率的に行うこととなる。また、その取組や成果が、中期計画I-3-(3)38 地域教育の「モデル校」として、ICTを活用した新しい連携の取組を提供することにつながり、地域の拠点校としての役割を果たし、地域の教育活動推進に寄与することができる。</p> <p>附属釧路小・中学校における蔵書数は、いわゆる公立義務教育諸学校図書館図書標準蔵書数と比較すると、小学校の蔵書数は7,960冊に対し8,740冊であり、中学校の蔵書数は9,040冊に対し3,550冊にとどまっている。教育活動に使用する蔵書数としては不足しており、早急な整備が必要である。また、それを補う目的でも、校外との図書ネットワークにアクセスし、その検索や実際の図書購入に活用することも必要である。</p> <p>積極的・自主的な読書活動を促し、図書に親しみ、読解力や思考力、表現力が養われる。また、多くの知識を蓄積し、多様な文化に触れることをとおし、学力の向上に寄与できる。</p> <p>すでに両校においてi-padを導入し、各教育活動で活用中であるが、絶対数が不足している。少なくとも2学級で同時に使用できる数を確保したい。また、小中ともに共通した端末を使用することにより、その互換性を生かした連携が期待できる。</p>

<p>成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)</p>	<p>授業のみならず、学級活動、各種行事、日常的な話し合い等の場面において、児童生徒が自主的に情報機器を活用することが多くなっている。</p> <p>また、小学校における児童委員会の貸出業務、調べ学習、中学校における職業体験、卒業研究等において、図書活用が活発に展開され、情報機器を駆使して必要な情報を検索し、積極的に活用する姿が確認できている。これらのメディアを日常的に活用することで、情報を処理する能力や情報を発信する能力、情報を評価・識別する能力、情報をクリティカル（批判的）に読み取る力等は向上してきていると判断できる。</p> <p>今回の導入により、2学級同時使用の環境に近づき、さらに教育活動で積極的に運用できる可能性が高まった。</p> <p>小学校においては、市立図書館と連動して図書を検索するシステムが構築され、一層図書利用の幅が広がった。授業のみならず、諸活動において積極的に利用する姿が確認できた。また、中学校においては、蔵書数の少ないこともあり、図書を検索するよりも、タブレット等の電子メディアを利用することが多い。また、校舎移転もあり、学校図書館の運用状況はまだ本来的ではないが、必要に応じて積極的に図書を活用する姿が散見されている。</p> <p>今後は、小中でデータを共有したり、共通したアプリを使用する等、タブレット端末を効果的、機能的に活用することと合わせ、情報の発信、選択、活用等の情報処理能力向上に向け、小中で発達段階に応じた活用計画をたてて運用する必要がある。</p>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>紙媒体の活用について、積極的な運用を図ることができるような働きかけが急務である。「図書（本）に親しむ」環境づくりは、小中で連携して取り組む課題である。本年度は校舎移転の問題もあり、小中連携においても、「中学生による小学生への読み聞かせ」等の活動を展開できなかった。</p> <p>また、タブレット端末の活用についても、その使用方法が限定的であり、必ずしも、多様な可能性を生かし切れていない。小中で供用できるシステムの構築と、ICT活用についての研修を深め、授業改善の方策に積極的に位置付けることが必要である。また、総数も不足していることから、学級単位での活動が制限されてしまう。耐用年限を迎える機器も出てくることから、計画的な増加が望まれる。</p>
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この実施報告書に添付すること。